

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2019 年度農業農村工学会賞の決定について	68
○ 研究部会長の交代について	68
○ 2020 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日	68
○ 第 43 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 1 報） 8 月 13～15 日開催	69
○ サマーセミナー 2019 参加者募集！ 9 月 6～8 日開催	70
○ 2019 年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 28 日	70
○ 2019 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 13 日	71
○ 今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再） 応募締切 7 月 31 日	71
○ 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	72
○ 消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について（再）	72
○ PWE 誌年間購読料の値下げについて（再）	73
○ 会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について（再）	73
○ 「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格に関するお知らせ（再）	73
○ 学生会員入会時の特典について	73
○ 「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）	73
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	74
○ 2020 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	74
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	75
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について	76
○ 2019 年度東北支部総会・第 61 回東北支部研究発表会ならびに第 51 回東北支部研修会・ 第 41 回地方講習会の開催について（第 1 報） 11 月 12, 13 日開催	77
○ 第 76 回農業農村工学会京都支部研究発表会の開催について（第 2 報） 発表申込締切 6 月 30 日	77
○ 第 74 回中国四国支部講演会ならびに第 43 回地方講習会の開催について（第 2 報） 講演原稿締切 8 月 21 日	78
○ 農業農村整備政策研究部会第 10 回研究会の開催について 6 月 28 日開催	80
○ 農村計画研究部会第 41 回現地研修集会の開催について（第 1 報） 9 月 19 日開催	80
○ 第 65 回理論応用力学講演会・第 22 回土木学会応用力学シンポジウムの開催について 6 月 28～30 日開催	81
○ 第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会の開催について 7 月 3～5 日開催	81
農業農村工学会論文集内容紹介	82
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	83
受入れ図書	84
学会記事	85

第 87 巻第 7 号予定

展望：田中久二

小特集：関東の多様な農業農村整備

報文：東京都の農業基盤整備と農地保全施策：太田純治ほか

報文：静岡県における農業農村整備：細野英彦

報文：利根導水路事業の管理業務と課題：徳添桂一ほか

報文：定点観測からみた府中用水の生態水理環境：福田信二ほか

報文：関東地方における水田圃場整備：山路永司

技術リポート

北海道支部：寒冷地農業用水路における補強・補修工法の施工事例：鈴木貴之ほか

東北支部：クラッシャーラン C-40 より安く調達可能な混合材の検討：沖田政崇

関東支部：県営三方原用水のクロズド化による高度な水利用の実現：池谷龍一ほか

京都支部：エアミルクによる既設暗渠閉塞工：三木浩史

中国四国支部：香川用水二期事業における鋼板内張工の施工事例：久元辰希

九州沖縄支部：デジタルカメラによる災害現場 3D モデルと復旧設計の検証：前田 勉ほか

小講座：「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の概要：後藤勝治

私のビジョン：夢から確かなビジョンへ—衛星から地上へ、地上から再び—：山下 恵

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年6月 28日	農業農村整備政策 研究部会	第10回研究会	Ⓟ 農業地域における情報通信イ ンフラ整備の展望	東京都	87巻6号
2019年8月 13～15日	農業用水展示実行 委員会	第43回「水の週間」水のワークショップ・展 示会	—	東京都	87巻6号
2019年8月 27日	創立90周年記念 式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月 4～6日	大会運営委員会	2019年度（第68回）農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ —	東京都	86巻12号 87巻1,4号
2019年9月 6～8日	農業農村工学サ マーセミナー実行 委員会	サマーセミナー2019	農業農村工学が令和で切り開 く未来～話と輪をつなぐ若手 交流～	東京都	87巻6号
2019年9月 19日	農村計画研究部会	第41回現地研修集会	Ⓟ 農村における再生可能エネル ギーの創出の現状と今後の展 望	那須塩原 市	87巻6号
2019年10月 17, 18日	中国四国支部	第74回講演会・第43回地方講習会	Ⓟ —	山口市	87巻5,6号
2019年11月 8日	関東支部	第70回支部大会	Ⓟ —	沼津市	87巻5号
2019年11月 12, 13日	東北支部	2019年度総会・第61回研究発表会・ 第51回研修会・第41回地方講習会	Ⓟ —	秋田市	87巻6号
2019年11月 14, 15日	九州沖縄支部	2019年度支部大会	Ⓟ —	大分市	87巻4号
2019年11月 27, 28日	京都支部	第76回研究発表会	Ⓟ —	和歌山市	87巻4,6号

2019年度農業農村工学会賞の決定について

2019年度農業農村工学会賞は、2019年5月10日（金）開催の第255回理事会において、学術賞2件、研究奨励賞4件、技術奨励賞1件、優秀論文賞2件、優秀報文賞4件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞6件、著作賞1件、教育賞2件、環境賞1件、地域貢献賞2件、国際貢献賞1件、功労賞3件、上野賞2件、沢田賞1件が、決定いたしました。授与式は、来る9

月4日（水）に府中市の東京農工大学府中キャンパスで行われます。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌7月号巻頭2019年度（第68回）農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

研究部会長の交代について

2019年4月1日付で下記研究部会会長が交代しました。

記

土壤物理研究部会

新部会長 西村 拓（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

前部会長 長 裕幸

農村計画研究部会

新部会長 石井 敦（筑波大学生命環境系教授）

前部会長 守田 秀則

2020年度農業農村工学会賞候補の推薦について

2020年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2019年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

2020年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	奨励賞		優秀賞				
	研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞	
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績				
賞の対象期間	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績	
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。		原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。	
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。				

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2009年10月から2019年9月までに発表されたものとする。	2014年10月から2019年9月までに行なった活動とする。	2017年10月から2019年9月までに行なった活動とする。	2014年10月から2019年9月までに行なった活動とする。	2014年10月から2019年9月までに行なったものとする。	2014年10月から2019年9月までに行なったものとする。	2017年10月から2019年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2019年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2020年度（第69回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2019年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

第43回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第1報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

詳細は次号でお知らせします。

記

1. 会 期 2019年8月13日（火）～15日（木）
2. 場 所 東京国際フォーラム G棟701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

サマーセミナー 2019 参加者募集！

農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～

はじめまして、農業農村工学サマーセミナー実行委員会です！ サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。1997年から重ねて20回目となる今回は、令和の元年ということで、【農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～】をテーマに、楽しくディスカッションを行いたいと思います。この機会に農業農村工学の課題や魅力を改めて考え、社会や自分のこれからを一緒に見つめなおしましょう！

他大学の学生と議論をしてみたい方、将来のキャリアを見据え人脈を広げたい方、あるいは進路について相談したい方など、どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして、私たちが実現したい未来について一緒に考えましょう！たくさんの方のご参加をお待ちしています。

1. 主催

農業農村工学会サマーセミナー実行委員会

浅田洋平（東京大学大学院農学生命科学研究科）

清水海斗（東京大学大学院農学生命科学研究科）

杉本卓也（東京大学大学院農学生命科学研究科）

田中宣多（京都大学防災研究所）

松田壮顕（京都大学大学院農学研究科）

鈴木友志（京都大学大学院農学研究科）

尾関竣哉（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）

大山幸輝（鳥取大学大学院連合農学研究科）

2. 日時 2019年9月6日（金）大会講演会終了後
～8日（日）昼過ぎ

3. 開催地（予定） 都内（国立オリンピック記念青少年総合センターおよび東京大学農学部を予定）

4. 対象 学部学生・院生・若手研究者

5. 参加費用（予定）

参加費 8,000円程度（宿泊、飲食代込）

※2日目の昼食代と交通費は参加費に含まれておりませんので、ご注意ください。

6. 詳細・参加申込み

以下のホームページにて随時公開予定です。

参加申込み期間：2019年7月上旬～8月上旬（予定）

URL：<http://nsumsemi.wp.xdomain.jp/>

7. お問い合わせ

Email：n.n.summer.seminar@gmail.com

2019年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件程度です。

本年度の申請締切は、2019年6月28日（金）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）参照）で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分

野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

(ホ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1～2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌

に積極的に投稿すること。

容を採否通知に同封します。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内

2019年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は**2019年9月13日（金）**です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2019年9月13日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日（水）17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円
優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
- ③ タグに3つのワード（jsidre2019, こりゃ映像, 農業用水）を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube 動画の URL）

9. 参考資料

- ・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには—Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- ・ 【2017 年版】 Youtube（ユーチューブ）に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>

・ 動画作成のヒント（超かんたん動画投稿法）

<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>

<参考>こりゃ映像 2018 結果（テーマ：私のかんがい施設産）

最優秀賞：万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水

富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治

高岡市土地改良区 北川 孝

<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXFOo>

優秀賞：田の下の力持ち、府中用水

東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛

https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

消費税の改定予定に伴う定価表示の変更について（再）

2019年10月1日から消費税の引上げが予定されているため、定期刊行物の購読料および図書の定価表示を2019年4月から下記のように外税表示に変更いたしました。会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

●定期刊行物（学会誌・論文集）

学会誌 1冊：本体1,115円＋税

非会員年間購読料 16,848円

(1,204円(8%時)＋200円(送料)の12カ月分)

論文集 1冊：本体7,570円＋税

年間購読料

会員（名譽、正、賛助） 7,570円＋税

学生会員 4,000円＋税

非会員年間購読料（年2回冊子発行）

16,750円（8%時）

（1冊の定価（8,175円，8%時）

＋200円（送料）の2冊分）

●出版物の定価表示

図書は、「本体価格＋税」に統一する。本体価格は、現行価格（消費税8%含む）を1.08で割り戻し、円単位で四捨五入して10円単位とする。

例：設計ダム

変更前定価表示 19,543円（消費税8%含む）

変更後定価表示 本体18,100円＋税

PWE 誌年間購読料の値下げについて (再)

オンラインジャーナル Paddy and Water Environment (PWE 誌) について、2018 年度の学会と発行元の Springer 社との契約変更、および今後の購読者数などの動向や会員サービスの向上などを踏まえ、2019 年 4 月から下記のとおり年間購読料を値下げいたしました。

年間購読料	値下げ後	値下げ前
正会員・名誉会員	9,000 円+税 (9,720 円, 消費税 8%時)	12,343 円 (消費税 8%含む)
学生会員	4,500 円+税 (4,860 円, 消費税 8%時)	8,743 円 (消費税 8%含む)

会費等の「振込手数料」のご送金者 (会員様等) 負担について (再)

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019 年 4 月 1 日からすべての「振込手数料」をご送金者 (会員様等) の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいた

します。
【主な対象となる振込手数料】
① 会費
② CPD 利用料

「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格に関するお知らせ (再)

2019 年 6 月末以降に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格を割引きして特別価格で販売中です。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805 円	4,628 円
特別価格	一般会員 3,000 円 学生会員 2,500 円	—

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック 3 点セット (ハンドブック+用語事典+初年度会費) に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック 3 点セット
(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000 円 (15,750 円)
大学院生 19,500 円 (16,750 円)

②必携 3 点セット
(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000 円 (5,750 円)
大学院生 10,000 円 (7,250 円)

③ 2 点セット
(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000 円 (3,750 円)
大学院生 8,000 円 (5,250 円)

() 内の金額は、10 月 1 日以降入会の場合。
なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック
必携：資格試験のための農業農村工学必携 (第二版)
用語事典：改訂 5 版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について (再)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身が CPD 登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019 年 3 月 18 日から「CPD 技術者サポート票」

(Excel ファイル) の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 6 月号掲載の問題は 7 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 88 巻（2020 年 1～12 月号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。

い。四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 春季 2019 年 6 月 30 日

夏季 2019 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 88 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2020 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500 字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>

journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 87, 88 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 87 巻第 7 号 関東の多様な農業農村整備（大会特集号）	—
8 号 農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策（仮）	終了
9 号 農地集積 8 割の達成後、農村はどのように変化していくのか（仮）	終了
10 号 世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化（仮）	終了
11 号 学会創立 90 周年記念号 I（仮）	—
12 号 学会創立 90 周年記念号 II（仮）	—
第 88 巻 1 号 農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用（仮）	7 月 10 日
2 号 東日本大震災からの復旧・復興（仮）	8 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
（公社）農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第 88 巻第 1 号テーマ「農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用」（仮）

1970 年代以降、コンピュータおよび各種ソフトウェア（プログラム、アプリケーション）の利用は、課題解決のための必須な手段となっています。さらに近年では、ICT の進歩により人工知能（AI）の適用もさまざまな分野において推進・研究されています。農業農村工学においても、スマート農業の基盤を推進し各種課題を解決するためのソフトウェアの開発が行われるとともに、自作・商用・非商用を含め数多くのソフトウェアが数値シミュレーション、意思決定支援、作業・管理の自動化、データ取得・分析・管理のためのツールとして実務や研究にお

いて使用されています。

このような日々進化する各種ソフトウェアの利活用に関する情報を学会員で共有することを目的として、本小特集では、農業農村工学の各種課題を解決するためのソフトウェアの開発、その活用事例や特徴、最新技術の導入、今後の発展や利用可能性について紹介・解説する報文を、事業主体、行政部署、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどさまざまなソフトウェアの開発者・利用者から広く募集いたします。

第88巻第2号テーマ「東日本大震災からの復旧・復興」(仮)

東日本大震災から2019年3月で8年が経過し、被災地の復旧復興が進み、岩手県、宮城県、福島県の被災農地の88%、排水機場の99%、農地海岸堤防の97%が復旧し、被災農地を大区画化する仙台東地区も完了を迎えている。

しかしながら、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難指示などがなされた福島県下の原子力被災12市町村においては、津波による農地の甚大な被害に加え除染後の地力低下などの課題も明らかとなり、農家は長期かつ遠方への避難や、風評被害、鳥獣被害など複合的な要因が相まったなか、営農再開も想定以上に進まない状況が続いている。したがって、福島県については本格的な復旧・復興はこれからの状況である。こ

うした厳しい状況下においても営農再開の機運は、早期に避難指示解除された地域から次第に高まってきており、地域の復興において農業農村整備の実施がきわめて重要な役割を担っている。

このように、東日本大震災の復旧・復興は各地域の事情によりその進捗が異なる状況となっており、復旧・復興がこれから着手される地域もあることから、各地の復旧・復興状況を紹介するとともに、復旧を契機とした新たな農業の展開が図られている地域の紹介や復旧・復興に難航している地域に係る調査、工法の選定と施工の事例や課題などについて、広く報文を募集する。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2018年7月から2020年6月までの編集事務局について**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター (IF) は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (18名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・ **Associate Editors-in-Chief**

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ **Editors** 11カ国から19名

・ **Editorial Advisors** 29名

・ **Chief Managing Editor**

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

・ **Managing Editors**

Dr. Eunmi Hong

Kangwon National University, Korea

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),

Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

2019年度東北支部総会・第61回東北支部研究発表会ならびに
第51回東北支部研修会・第41回地方講習会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 2019年11月12日 (火), 13日 (水)

[第2日目] 11月13日 (水)

2. 会場 秋田ビューホテル

〒010-0001 秋田市中通2-6-1

TEL : 018-832-1111

(3) 支部研修会・地方講習会

3. プログラム概要 (案)

[第1日目] 11月12日 (火)

(1) 支部総会・研究発表会

(2) 情報交換会

4. 問合せ先

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23

山形大学農学部食料生命環境学科 石川まで

Email : ishikawa@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

5. その他

詳細は本誌7月号に掲載予定です。

第76回農業農村工学会京都支部研究発表会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

(1) 日時 2019年11月27日 (水) 10:00~17:00

(2) 会場

◎受付・開会式、表彰式・基調講演

和歌山県民文化会館

〒640-8269 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL : 073-436-1331 FAX : 073-436-1335

◎研究発表会・情報交換会

アバローム紀の国

〒640-8262 和歌山県和歌山市湊通丁北2-1-2

TEL : 073-436-1200

※和歌山県民文化会館、アバローム紀の国の両会場は近接しています。

(3) 会場までのアクセス

◎南海電鉄 南海線「和歌山市駅」下車

・徒歩 約20分

・タクシー 約5分

・バス (9, 10番のりば) 約10分乗車「県庁前」

バス停下車 徒歩約4分

◎JR 阪和線 (きのくに線)「和歌山駅」下車

・徒歩約35分

・タクシー約10分

・バス (2番のりば) 約10分乗車「県庁前」バス停下車 徒歩約4分

2. 情報交換会

(1) 日時 2019年11月27日 (水) 18:00~20:00

(2) 会場 アバローム紀の国

3. 現地研修会

(1) 日時 2019年11月28日 (木)

(2) 内容 現地研修会は和歌山県内の農業水利施設や土地改良事業工事現場の視察等を予定しています。コース等、詳細が決まり次第、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせいたします。

4. 研究発表申込み

2019年6月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以

下の情報を箇条書きにした電子メールを三重大学・渡辺にご送信ください。①表題(仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門(水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、件名を「発表申込み」としてご下さい。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学専攻共生環境学専攻 渡辺晋生

E-mail: kunio@bio.mie-u.ac.jp

TEL: 059-231-9583

5. 投稿原稿申込み

(1) 原稿投稿先および期限

2019年7月末日までに、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿(PDFもしくはMSワード)と投稿票(MSエクセル)を、電子メールで三重大学・渡辺までご送信ください。投稿票は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)の「第76回京都支部研究発表会の開催について」よりダウンロードしてください。

※申込みは電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信いたします。

(2) 投稿要領

- ・発表者は学会員に限らない。ただし、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれること。
- ・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ内の「発表申込み(投稿票)と投稿要領」(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)を参照してください。
- ・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。
- ・発表時間は12分(質疑応答は3分)です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出してください。
- ・発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows10, ソフトはPowerPoint)を準備します。
- ・データはCD-R, USBメモリーをご用意ください。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)の「第76回京都支部研究発表会の開催について」にアクセスし、「参加申込み」のリンク先からお申込みください。

(2) 申込期限 2019年8月30日(金)

(3) 参加費等 研究発表会 会員3,000円 非会員4,500円
情報交換会 5,000円

現地研修会 3,000円(学生は無料)

(ア) 昼食

研究発表会の会場周辺では昼食をとる場所が少ないので、弁当を1,000円/個(税込)で事前予約にて受け付けます。ご希望の方は参加申込時に併せてお申込みください。

(イ) 参加費の納入

申込み後、ホームページの案内に従ってお振り込みください。振込手数料については振込人負担でお願いします。なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)日本旅行を通じて行います。ご希望の方は参加申込時に、併せて申込み願います。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

(5) 問合せ先

(株)日本旅行「第76回農業農村工学会京都支部研究発表会」担当 佐々木、平井

〒640-8331 和歌山市美園町5-61

TEL: 073-436-1388(直) FAX: 073-425-1578

E-mail: masachika_sasaki@nta.co.jp

営業時間: 平日10:00~18:30(土日祝日休業)

7. 開催地事務局

和歌山県農林水産部農林水産政策局農業農村整備課内

第76回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 中西、山崎

TEL: 073-441-2951 FAX: 073-425-0287

E-mail: nakanishi_y0021@pref.wakayama.lg.jp

第74回中国四国支部講演会ならびに第43回地方講習会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日程

(1) 支部講演会

日時: 2019年10月17日(木)

会場: 山口県総合保健会館(山口県健康づくりセンター)

〒753-0814 山口県山口市吉敷下東3-1-1

TEL: 083-934-2200 FAX: 083-934-2209

プログラム(予定)

受付開始 9:30~

開会式 10:00~10:15

支部表彰式 10:15~10:25

特別講演 10:40~12:00

「衛星リモートセンシングを用いた農村モニタリングの可能性」

山口大学副学長（国際連携担当） 三浦房紀
 <昼食 12：00～13：00>
 一般講演 13：00～17：00

TEL：0852-32-6550

E-mail：fukada@life.shimane-u.ac.jp

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしてありますので、ご
 注意ください。

(2) 情報交換会

日時：2019年10月17日（木）18：00～20：00

会場：西の雅 常盤

〒753-0056 山口県山口市湯田温泉 4-6-4

TEL：083-922-0091 FAX：083-924-3080

※講演会会場から情報交換会会場まではバスに
 てご案内します。

(3) 地方講習会

日時：2019年10月18日（金）

会場：山口県総合保健会館（山口県健康づくりセン
 ター）

※テーマは調整中。決定次第、中国四国支部ホーム
 ページ等にてお知らせします。

2. 講演申込み

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め1課題3ページ以
 内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のペー
 ジ（<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>）に掲載している講演
 原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿をPDFにした
 ファイルと投稿票（前記支部ページからダウンロード）を
 メールにより下記の講演申込先までお送りください。そ
 の際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として
 ください。受領確認はメールで返信を行います。なお、
 発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合があ
 りますので、講演者（○印）の方は必ず連絡先メールアド
 レスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名が学会員であることが
 必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクター、パ
 ソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録しま
 す。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 原稿の締切日

2019年8月21日（水）必着でお願いします。

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

島根大学生物資源科学部 深田耕太郎

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

3. 参加申込み

(1) 参加申込書

参加申込みについては、以下の申込み様式に従い、所属
 機関ごとにまとめてメールにより下記（2）までお送りく
 ださい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会申
 込み」としてください。なお、様式は、学会ホームペー
 ジの支部のページ（<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>）からダ
 ウンロードできます。

(2) 支部講演会、情報交換会、地方講習会申込窓口・問合せ
 先

山口県農林水産部農村整備課 井川、藤井、猶

〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1

TEL：083-933-3418 FAX：083-933-3429

E-mail：a17500@pref.yamaguchi.lg.jp

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしてありますので、ご
 注意ください。

(3) 申込締切日 2019年8月30日（金）

※講演者の原稿の締切りは8月21日（水）です。締切
 日が異なりますので、ご注意ください。

(4) 参加費等の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額
 前納でお振込みをお願いします。振込手数料については、
 振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご
 記入ください。

なお、振込み後の参加費等の返金については、原則応じ
 られませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名：山口銀行 県庁支店

○店番号：044

○口座番号：（普通）5033018

○名義人：支部講演会・講習会実行委員会

委員長 長嶺 栄治

（シブコウエンカイ・コウシュウカイジッコ
 ウイインカイ イインチョウ ナガミネ
 エイジ）

(5) 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自でのご対応
 をお願いいたします。

4. 詳細

支部講演会・情報交換会および地方講習会の詳細につい
 ては、本誌7月号以降に掲載予定の第3報でお知らせします。

農業農村整備政策研究部会第10回研究会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会では、下記のとおり、第10回研究会を開催します。昨今注目されるスマート農業において重要となるのは、それを支える情報通信インフラです。特に通信分野においては、5GやLPWAなどの新技術も次々と登場しており、それらをどのように活用していくべきかが重要な課題です。そこで、(株)インターネットイニシアティブの齋藤透IoT基盤開発部長に、「農業地域における情報通信インフラ整備の展望」と題して、農業地域における情報通信インフラ整備の課題や今後の展望についてお話いただきたいと思っております。奮ってご参加願います。

記

1. テーマ 農業地域における情報通信インフラ整備の展望
2. 日時 2019年6月28日(金) 16:00~18:00
3. 場所 農業土木会館2階A会議室
4. 次第
 - ①部会長挨拶 16:00~16:05
東京大学准教授 飯田俊彰
 - ②講演「農業地域における情報通信インフラ整備の展望」
16:05~17:05

(株)インターネットイニシアティブ

ネットワーク本部IoT基盤開発部長 齋藤 透

③質疑応答と討議 17:05~18:00

5. 懇親会

研究会終了後に立食懇親会(会費2,000円, 18:15~19:30)を開きます。

6. 参加申込み

農業農村整備政策研究部会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/seibiseisaku/>)で部会員登録(無料)した上、下記の部会事務局まで出席の申込み(懇親会参加も含む)を伝えてください。

なお、本研究会は技術者継続プログラム(CPD)2単位を申請しています。

7. 事務局(問合せおよび参加申込み)

参加申込みおよび不明な点がありましたら、担当の稲田、三上、小泉(以下の連絡先)までご連絡ください。

TEL: 03-3591-5798

E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

農村計画研究部会第41回現地研修集会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催: 農村計画研究部会
協賛: 農村計画学会(予定)
後援: 調整中
2. 日程 2019年9月19日(木)
3. 場所 那須野ヶ原土地改良区連合内施設および周辺施設
4. テーマ 農村における再生可能エネルギーの創出の現状と今後の展望
5. 趣旨

平成26年に農山漁村再生可能エネルギー法が施行され、各地方自治体では策定した基本計画に基づき、地域における資源を利用した太陽光、水力、風力、バイオマス発電などが推進されてきました。本現地研修集会では那須野ヶ原土地改良区連合における再生可能エネルギー関連施設を見学し、現場で明らかになったそれぞれの発電技術における課題やその解決法について、現場の担当者から説明を頂きます。また、近年の水利用の変化に合わせた水利施設管理などの状況についても現地の方からお話をお伺いする予定です。

皆様方の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

なお、本現地研修集会は、農業農村工学会大会講演会中に開催される企画セッション「農村における再生可能エネルギーの創出の現状と今後の展望」と連動した企画です。

6. 行程(案)

10:00 JR 那須塩原駅 集合

那須野ヶ原土地改良区連合へ移動

那須野ヶ原発電所等再生可能エネルギー関連施設の見学

17:00 JR 那須塩原駅 解散

7. 参加費・参加申込み

(1) 参加費(昼食代を含む)

一般6,000円程度、学生3,000円程度

当日集合場所にて現金で集金(現金払いが不可能な方は、申込書にその旨ご記載ください。)

(2) 参加申込み

申込期限: 2019年9月5日(木)まで

申込方法: 農村計画研究部会 Web ページ(<http://www.jsidre.or.jp/keikaku/>)より参加申込書ファイルをダウンロードし、申込先へ電子メールで送信

申込先: 農村計画研究部会 現地研修集会担当

石川県立大学 山下良平

E-mail: r-yama@ishikawa-pu.ac.jp

変更・取り消し: 2019年9月12日(木)までに申込先へ連絡

8. その他

7月1日(月)より現地研修集会 Web ページを公開予定で

す。こちらで最新情報をご確認ください。

第 65 回理論応用力学講演会・第 22 回土木学会応用力学シンポジウムの開催について

「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。なお、今回の講演会は、第 22 回土木学会応用力学シンポジウムと併催の形で開催いたします。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

詳しくは、第 65 回理論応用力学講演会・第 22 回土木学会応用力学シンポジウムホームページ (<http://www.jsce.or.jp/committee/amc/nctam/nctam65/>) をご覧ください。

1. 主 催 (公社)土木学会

共 催 (公社)農業農村工学会ほか 19 学協会 (予定)

2. 日 時 2019 年 6 月 28 日 (金) ~30 日 (日)

3. 場 所 北海道大学工学部
(北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目)
(札幌市営地下鉄南北線北 12 条駅下車, 徒歩 7 分)

4. 問合せ先

第 65 回理論応用力学講演会・第 22 回土木学会応用力学シン
ポジウム事務局
〒104-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目外濠公園内
(公社)土木学会 研究事業課 林 淳二
TEL : 03-3355-3559 (研究事業課)
E-mail : AMC_SymOffice@jsce.or.jp

第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会の開催について

アイソトープ・放射線研究発表会は、さまざまな専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究の発表と討論を行い、各分野間の知見と技術の交流を図るものです。奮ってご参加ください。

詳しくは、第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会ホームページ (https://www.jrias.or.jp/isotope_conference/) をご覧ください。

1. 主 催 (公社)日本アイソトープ協会

協 賛 (公社)農業農村工学会ほか 26 学協会

2. 日 時 2019 年 7 月 3 日 (水) ~5 日 (金)

3. 場 所 東京大学弥生講堂
(東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部キャンパス内)

4. 問合せ先

第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会 事務局
(公社)日本アイソトープ協会
学術振興部 学術課
TEL : 03-5395-8081 FAX : 03-5395-8053